



兄・五瀬命との別れ

神倭伊波礼毘古命と五瀬命の一行は、海を渡り、河内の国（大阪）に着きました。そこにはこの地一帯を我がものとしていた那賀須泥毘古が軍を率いて待ち構えていました。命たちは船に納めてあった楯を取り、立ち向かいます。しかし、激しい戦いの中で五瀬命は那賀須泥毘古が放った矢に当たり、手にひどい傷を負ってしまいました。五瀬命は考えました。

「私は太陽の神の子でありながら、太陽に向かって戦ってしまった。今はこの地を離れて、もう一度太陽を背にして戦おう。」

そこで一行は、この地を離れて南に向かうことにしました。

五瀬命は海岸で手についた血を洗い流し、紀の国（和歌山）までやってきました。

「ここで倒れてしまうのはとても残念だ。悔しい！」と叫びながら亡くなりました。

